

高校道德の実践的諸問題

—— 自己評価の問題を中心に ——

小川哲哉* ・ 長島利行** ・ 渡邊哲郎***

(2013年9月17日受理)

A study about the practical problems of morality in a high school : Focused on the problems of self-evaluation

Tetsuya OGAWA, Toshiyuki NAGASHIMA and Tetsuro WATANABE

キーワード: 高校, 道德, 評価

本論文の目的は、茨城県の県立高等学校(以下、県立高校)における道德教育の評価方法を考えるために、高校生自身による「自己評価」モデルを提示し、その有効性を試行的に検証することに求められる。平成19年度から茨城県の全ての県立高校では、第1学年(単位制課程は1年次)の全生徒に対して「総合的な学習の時間」で「道德」を1単位(年間35時間)履修させている。このような公立高校の道德必修の試みは全国的にも類例がない。ただ、その教育実践をどのように評価するかに関しては教育現場での試行錯誤が続いている。茨城県の場合、道德に対する評価は、道德が総合的な学習の時間に設定されていることもあり重要な教育課題である。本論文では、道德評価の一つの試みとして、「観点別評価」に基づいて生徒自身が「自己評価」を行う方法の有効性を検証している。周知のごとく道德性は、個人の内面で育成されるものであるため、その内実を明らかにすることは難しいといわれている。ここではモデル授業を実施して、生徒が自己評価を行った上で、その問題点と課題を明らかにした。

はじめに

周知のごとく小学校や中学校においては「道德の時間」を要として学校の教育活動全体を通して道德教育が行われているが、高等学校(以下、高校)においては特定の時間を割いて道德の授業を実施している例は少ないといってよい。その意味で平成19年から行われている茨城県の高校道德は全国的にも注目されるものであろう。茨城県では県立高校の第1学年(単位制課程は1年次)の全生徒に、「総合的な学習の時間」を生かして「道德」を1単位(35単位時間)履修させている。

その具体的内容は、中学校道德の内容として定めている24項目(平成18年当時は23項目)の指

*茨城大学教育学部

**茨城県教育庁

***茨城県立緑岡高等学校

導に基づいて、中学校の24項目を高校段階の生徒に対応した表現に置き換え、中学校の道徳との連続性を重視した上で、高校生に相応しい道徳の内容を設定している¹⁾。

ただ、中学校と違って高校における道徳の教育目標では、「人間としての在り方」だけでなく「人間としての在り方生き方」に関する教育にも重点が置かれていることに注意したい。というのも高校生は、その発達段階から見ても人間としての生き方や生きることへの意味を深く考え、自問自答していく時期であるからだ。そのような点が中学生段階とは大きく異なる点であろう。

さらに茨城県の場合には、道徳が総合的な学習の時間に設定されていることもあって、自己の人間としての在り方や生き方との関連性を問うことは特に重要な教育課題となってくる。周知のごとく総合的な学習の時間の目的は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習」を通して、自ら考え、主体的に判断して問題解決していくことに求められているが、道徳の時間ではさらにそれを人間探究の問いへと発展させていくことが重要となる²⁾。

ところで人間としての在り方生き方に対する論究は、各教科においても取り上げられている。特に公民科の「現代社会」や「倫理」では重要な教育課題である³⁾、特別活動における「ホームルーム活動」でも、そうした論究への自覚を深化させていくことが求められている⁴⁾。このように考えていくと、高校道徳が対象とする教育指導は、教科教育から特別活動に至るまで様々な領域に渡っており、まさに学校の全教育活動を通じて行われるものである。

茨城県の道徳の時間は、まさにこうした教育活動全体をさらに統合や深化させる役割を担っているのである。そのため茨城県教育委員会は、高校生が道徳の問題に興味を持って取り組むことができるように読み物教材を作成している。それが、県作成生徒用テキスト『ともに歩む—今を、そして未来へ—』（平成18年初版、平成23年一部改訂第6版）である⁵⁾。このテキストでは、中学道徳で項目づけられている24の内容項目（価値項目）に関連した35の読み物教材が選定されており、道徳の時間では高校生がこれらの教材に真剣に取り組むことで豊かな道徳性を形成することが重要な教育目標にされている。

以上のような趣旨と経緯に基づいて、茨城県では高校道徳が定着しつつあるのだが、そのために避けて通れない問題がある。それは高校道徳の評価の問題である。特に茨城県の高校道徳は、教育課程的には総合的な時間の中に設定されていることもあり、道徳教育をどのように評価するのかは重要な課題である。そのための試行錯誤が教育現場で続けられているが、本論文ではその現状を明らかにした上で、道徳評価の一つの試みとして、「観点別評価」に基づいて生徒自身が「自己評価」を行う方法の有効性を検証してみたい。そのために、県立A高校において授業実践を行い、試行的な評価モデルに基づいて高校生に自己評価を行ってもらい、それに対するアンケート調査を実施して特質と問題点を明らかにしたい。ここではまず最初に、茨城県における高校道徳の評価の現状を見てみよう。

茨城県の高校道徳における「評価」の現状

現在茨城県の高校道徳は、総合的な学習の時間に位置づけられているため、評価方法も総合的な学習の時間と同じような取り扱いがなされている。総合的な学習の時間の評価は基本的には、その時間で行った「学習活動を文章で記述する」とし、さらに「各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が定めた評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある

場合などにその特徴を記載する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことになっている⁶⁾。しかも文章で評価するに際しても、「生徒自らが成長を実感し、新たな課題や目標が見付けられるように教師が生徒の道徳的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付けるはたらきを重視しながら総合的に行う」ことが求められており、以下に示す6つの観点別の評価がなされ、それを生徒指導要録に記載することになっている⁷⁾。

- ① 真剣に学習活動に取り組み、集中することができているか。
- ② 生徒が自分自身と深く対話しながら、発言したり表現したりして、主体的に参加することができているか。
- ③ 他者の発言を理解し、尊重して他者受容することができているか。
- ④ 学習指導の過程で道徳的価値の自覚を深められているか。(人間のよさ、自分のよさ、友達のよさがどの程度理解できているか)
- ⑤ ねらいに関わって、どのような体験があるか。
- ⑥ 生徒自身が主題に関わっての自分の感じ方、考え方、行為の現状を客観的に理解することができているか。

高校道德の広範囲な教育・学習活動の評価は、これら6つの観点からなされることになる。例えば、授業観察や記録、個々の面接、さらには道德ノートや作文、ワークシート(授業の振り返りシート)の文章表現、質問紙(例:授業前後のアンケート)などである。ここでは多くの高校で行われている「ワークシートによる評価法の例」を紹介したい(読み物教材の番号は、県作成生徒用テキスト『ともに歩むー今を、そして未来へー』のタイトル番号である)。

ワークシートによる評価例

<Aさん(1年生徒・男子)の例:読み物教材「28守りたい伝統」>

「高校を卒業したら東京の大学に行って、将来は田舎を出たいと思っていたが、グループの話合いで、Bさんは高校を卒業した後も地元に残り仕事を見つけないかと言っていた。理由を聞くと、お祭りで太鼓をたたく人がいなくなってしまうと言っていた。私とは考えが違うと思ったが、Bさんの言っていることもよくわかる。将来については、自分の将来をもう少し考えてみたいと思った。」

<Aさんに対する教員評価の例>

「Aさんは、自分の考えとは異なっている友人の考えをしっかりと受け止め、冷静に分析し、自らの将来の在り方生き方について考えるようになっている。」

<Cさん(1年生徒・女子)の例:読み物教材「33温もりの大切さ」>

「私も、道德の授業で介護することの意味を自分なりに理解することができたので、老人ホームなどにボランティアに行ってみたいです。」

<Cさんに対する教員評価の例>

「道德の授業をとおして奉仕の精神の大切さや奉仕する喜びを知り、自ら進んでボランティア活動に参加するようになっている。Cさんはその後実際に介護施設にボランティア活動に行くように

なった。」

この2例では、読み物教材を使った道徳授業を受けた後、振り返りのためのワークシートに自分の素直な感想や意見を書くことで自己評価を行い、そこに見られる道徳的心情を教師が受け取り、教員が生徒の心情を肯定的に受け入れることにより評価を行っている。このようなワークシート形式の評価方法は、多くの高校で行われている最も一般的なものであり、現在の高校教育現場において広く普及しているといつてよい。ワークシートに書かれた生徒たちの率直な感想や意見からは、彼らが個々の教材から読み取り、そこから受け取ったものを自分の言葉で表現していることが分かる。この種の振り返り作業は、生徒個人が自己の道徳的心情のあり様を自覚するために重要なものであろう。また教員も彼らの自己評価に基づいて、その道徳的心情形成を肯定的に捉えていくことは生徒理解のためには重要である。ただ、こうした評価方法には様々な課題があることも事実である。特に教員の評価においては、評価する教員がいかにして生徒の内面的心情の深さを読み取るかが重要で、そのためには生徒と教員との相互の信頼関係と深いコミュニケーションが求められる。そうした関係が形成されないと、正当な評価を行うことは困難であろう。

しかしながら、このような教員側の評価方法よりも生徒たちの自己評価の問題で注意しなければならないのは、その基準である。2例にも見られるように、彼らの自己評価には、それを評価する観点が不明確な面があり、場合によっては漠然とした自由感想の域を出ないこともあり得る。どのような観点から自己の道徳的心情形成を評価するのかは、生徒たちの自己評価にとって極めて重要な課題である。

そこで本論文では、教員側が基準としている6つの観点に基づいた自己評価モデルを提示してその有効性を検証しようと考え、実際の授業を通じて生徒の自己評価とアンケート調査を行った。

高校生の観点別自己評価に対する意識 —授業とアンケート調査から—

授業と自己評価及びアンケート調査は、平成25年7月に県立A高校の42名に対して実施した。授業で使用した読み物教材は「守りたい伝統」⁸⁾である。以下は、その教材資料と学習指導案である。

<資料名「守りたい伝統」>

「ああ、どうして私の街はこんなに田舎なのだろう。」窓から見える外の景色は田んぼや畑ばかりで、遠くに行き物に行く時は、最寄りの駅まで何十分も車を走らせなければならない。おしゃれな服やかばんや靴は近くのお店には売っていないし、便利なはずのコンビニエンスストアも、近くなれば不便である。私は年を重ねる度に、もっとおしゃれなものがたくさん売っていて、交通機関も発達している、華やかな都会に住みたいと考えるようになっていった。もちろん高校を卒業したら東京の大学に通って、将来は田舎を出たいという夢も自然と描くようになっていた。そして自分が生まれ育った茨城の田舎に、何の思いも無かった。しかし、この夏のある小さな出来事をきっかけに、私は自分の街、田舎の良さについて考えるようになった。

その出来事とは、今年の夏の、祖母の住んでいる地区のお祭りの時の事である。この地区では、大人がかつぐ神輿とおはやしが、決められた家々を周り、最後には神社に戻ってくるというもので、その地区

の人達が力を合わせて行うお祭りである。私も小さい頃は毎年のようにこのお祭りの日に祖母の家に行き、神輿やおはやしを見に行っていた。私だけでなく、いとこ達やおじやおばも集まって、親戚一同お祭りを楽しんでた。また、祖母の家の庭には一本の大きな木があり、そこにカブトムシやクワガタが蜜を吸いにやってきていたので、私と妹と年下のいとこ達は家から虫籠を持ってきて、カブトムシやクワガタを捕まえて楽しんだ。そして近くの家で神輿とおはやしが行くと、みんなで見に行き、もらったアイスを頬張った。おもしろい遊具や屋台があるわけではないが、私達はなぜかとても楽しかったのだ。しかし私や妹が中学生、高校生になると、他に用事ができて、毎年くることもなくなってしまった。いとこ達はカブトムシに飽きる年頃となり、だんだん祖母の家にこなくなっていた。そうやってこのお祭りと共に味わった楽しさや夏の思い出を忘れかけていた今年の夏、私は久しぶりにお祭りに行ってみた。そこは、私の小さい頃と変わってはいなかった。二十代や三十代の若者が、年配の方と一緒に声を張り上げながら神輿をかつぎ、あの頃と同じおじさんが、篠笛を吹き太鼓をたたいている。神輿が来ると、小さな子供もおじいちゃんやおばあちゃんも、いろいろな世代の人々がみんな同じ笑顔で集まってくる。蝉が鳴くこのにぎやかな夜には、涼しい風が田んぼや畑の上をゆっくりと通り過ぎていく。私はこの光景を見て、この風を感じた時に、何だか心が温かくなった。「なんかいいな。」と思った。どんどん形を変え機械化し、情報化する都会と違って、この田舎には、昔から変わらない光景が広がっている。それはお祭りのにぎやかさだったり、人々の笑顔だったり、涼しい風だったりと様々だが、どれも大切なこの地区の宝なのだ。そしてこれが、茨城のこの街のこの地区の、文化や伝統なのだ。私はそう思った。今まで早く出ていきたいとばかり思っていたこの田舎が、この時はとても誇らしく思えた。毎年かつぐ小さな神輿も、おはやしも、おじいちゃんもおばあちゃんも、それにずっと前に建てられて、今はもうボロボロの祖母の家も、その庭にある大きな木も、全てが私には輝いているように見えた。そして私の心の中に、ある強い気持ちが芽生えた。それは、この伝統をこの先ずっと、一生守りたいという思いだ。もちろん大きな事件でも無い限り、この祭りは続いていくだろう。しかし私が守りたいと思うのは、この時感じだすべてのものである。人々の笑顔も、涼しい風も、広々として緑いっぱい自然も、驚くほどゆっくり流れている時間もすべてだ。この田舎でしか味わうことのできないものを、一生守りたいと思ったのだ。

私は今、茨城のこの街の良さを、自信を持って言うことができる。その良さとは、社会が都市部を中心に機械化、情報化してだんだんと変化していく中で、私の街には、ここ田舎には、昔から変わらずゆったりとした幸せな時間が流れていることだ。そして、代々大切に受け継がれてきた伝統が、人々の手で今も守られ、誰もがそれを感じることができることだ。私は見て、聴いて、感じたこの田舎の良さを忘れずに、これからもずっと誇りをもち続けていきたいと思う。なぜなら、これが、伝統を守るために私ができる事だと思っからである。

(茨城県「第二十回大好きいばらき作文コンクール入賞作品集」より 茨城県立高校 生徒作文)

「道德」学習指導案		指導者	〇〇〇〇
主題名	郷土愛をはぐくむ	内容項目	4－(8)
ねらい	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛する気持ちを育てる。		
資料名	守りたい伝統(「ともに歩む」)		

主題設定 の理由	生徒の多くは、今いる環境が当たり前のもので生活している。そこで、読み物資料を通して、親をはじめとする周囲の人々やその土地の風土に育てられてきたという意識をもつことで、現在の環境や先人に感謝し、郷土を愛する心を育ませたい。	
展 開		
	学習活動(発問と予想される生徒の心の動き)	指導上の留意点
導 入	<p>○それぞれの郷土について考える。</p> <p>あなたの街、田舎の良さを挙げて、グループで紹介しましょう。</p> <p>・特産品(干し芋、納豆、そば)・祭り、花火(黄門祭り) ・観光地(偕楽園、弘道館)・自然が豊か</p>	<p>・グループで話しやすい環境を作る支援をする。</p> <p>・発表を板書し、目で確認できるようにする。</p>
展 開	<p>○資料を読んで、郷土の良さを振り返る。</p> <p>なぜ、私は「なんかいいな。」と思ったのでしょうか。グループで話し合ってみましょう。</p> <p>・田舎っていいかもしれない ・懐かしい感じ</p> <p>なぜ、私は「この伝統をこの先ずっと、一生守りたい」という強い気持ちが芽生えたのでしょうか。</p> <p>・久しぶりにお祭りに行きたくなった ・伝統を守るって大事なことも</p>	<p>・感じたままを素直に表現させる。</p> <p>・「伝統」「誇り」「守る」などのことばを意識させる。</p> <p>・自分の気持ちをワークシートに記入させる。</p>
ま と め	<p>○自分の街を振り返る。</p> <p>あなたが伝統を守るためにしたいと思ったことを書いてみましょう。</p> <p>・いろいろな行事等に積極的に参加する ・意識する</p> <p>今日の授業で感じたり考えたりしたことをまとめましょう。</p> <p>・改めて田舎の良さを感じた ・あまり行っていなかった祭りに参加したいと思った。</p>	<p>・今まであまり気にしたことがなかった郷土について素直に向き合えるように支援する。</p> <p>・自分の思いや考えをワークシートに記入させる。</p>
評 価	<p>・本時のテーマ、キーワード、内容を理解できたか(知識・理解)</p> <p>・本時の内容に積極的に関わることができたか(関心・意欲・態度)</p> <p>・ワークシートに自分の考えを記入することができたか(思考・判断)</p> <p>・自分の考えを発言したり、他者の意見を聞いたりできたか(技能・表現)</p>	

(学習指導案作成に関しては渡邊哲郎氏の協力を頂いた)

生徒たちは、指導案で示されているような授業を受けて、次の「生徒自己評価表」における「自己評価」と、その評価に対する自由記述を「自由記載欄」に記入した。自己評価の基準は、先に示した6つの観点

に立ちながらも、授業内容に沿って自己評価できる7つの観点を新たに設定して生徒各自が評価するようになった。6つの観点と、本授業の7つの観点は次のように対応している。

①＝(1), ②＝(2)・(3), ③＝(4), ④＝(5), ⑤＝(6), ⑥＝(7)

生徒自己評価表

28「守りたい伝統」

【生徒用ワークシート(振り返りシート)】 年 組 番 氏名 _____

◎自己評価の欄には、★, ☆, △のいずれかを記入してみましょう。

- ・よくできている (よく考えられた) → ★,
- ・大体できている (だいたい考えられた) → ☆,
- ・まだできていない (あまり考えられなかった) → △

◎自由記載欄には、授業を振り返り、「思ったことや、考えたこと」を書いてみましょう。

(1) 真剣に学習に取り組み、集中できていましたか。

自己評価	
自由記述欄	

(以下、「自己評価」と「自由記述欄」は同様のため略する)

- (2) 自分自身と対話しながら、授業に主体的に参加することができましたか。
- (3) 自分の住む街の良さについてじっくりと見つめ直すことができましたか。
- (4) 友達の住む街の良さについて理解することができましたか。
- (5) 授業を通じて、郷土意識や地域社会に対する連帯感、地域の人々との人間関係の大切さの自覚を深められましたか。
- (6) あなたにとって、自分の街の良さに気付く体験をしたことがありますか。
- (7) 生徒は、友達の考え方から、新たに自分を振り返ることができましたか。

【評価結果】

生徒自己評価表の結果は、以下の通りである(自由記述は代表的なものにとどめた)。

(1)真剣に学習に取り組み、集中できていましたか

自己評価 ★・・・30人, ☆・・・11人, △・・・1人

自由記述欄

- ・このような授業は久しぶりだったので新鮮に感じた。
- ・真剣に地元茨城のことを振り返ることができた。周りの人の街のよさを真剣に聞いた。
- ・真剣に考えるほど違った考えが浮かんできた。
- ・班のみんなと協力し合い、学習できた。授業にしっかりと取り組めた。
- ・話題が別の話になってしまうときがあった。
- ・考えはしたが何も意見が出せなかった。

(2)自分自身と対話しながら、授業に主体的に参加することができましたか

自己評価 ★…23人, ☆…18人, △…1人

自由記述欄

- ・意見交換できた。自分から積極的に発言できた。自分自身でよく考えて発言できた。
- ・普段、伝統をあまり考えていなかったので自分と対話することができた。
- ・こういうときに自分ならどうするかを考えることができた。
- ・自分のことは意外に分かっていないことを知った。

(3)自分の住む街の良さについてじっくりと見つめ直すことができましたか

自己評価 ★…28人, ☆…13人, △…1人

自由記述欄

- ・街の良さについてたくさん挙げることができた。自分の街にしかない良さや誇りに気づいた。
- ・他の地域のことをきくことで、自分の地域にある良さに気づけました。自然豊かな街を再認識した。
- ・今まで街のことをあまり考えたことがなかったので、授業ができたよかった。
- ・良く考えてみたり、友人の話を聞いて何でもないことが実は素晴らしいことであると感じた。
- ・見つめ直して自分の街の良いところに気づいたが、田舎であること変わらないと思った。

(4)友達の住む街の良さについて理解することができましたか

自己評価 ★…28人, ☆…10人, △…4人

自由記述欄

- ・自分の地域とは違う良さがたくさんわかった。他の地域の新しい発見があった。
- ・友達の地元の話聞くことが楽しかった。友達の住む街の伝統についていろんな話が聞けた。
- ・友達との話し合いが少なかった。

(5)授業を通じて、郷土意識や地域社会に対する連帯感、地域の人々との人間関係の大切さの自覚を深められましたか

自己評価 ★…25人, ☆…14人, △…3人

自由記述欄

- ・田舎は嫌だったが、自分の街のお祭りの伝統はずっと続いてほしいし、受け継ぐべきだと思った。
- ・人とつながることの大切さを感じた。今回の授業で他の地域との人間関係の大切さを知った。
- ・地域の人々の一体感に気づいた。地域の行事に積極的に参加したい。
- ・今回の授業で地域のいろんなことにもっと関わるべきだと思った。

(6)あなたにとって、自分の街の良さに気付く体験をしたことがありますか

自己評価 ★…10人, ☆…15人, △…17人

自由記述欄

- ・近年地元の行事に参加していなかったので参加したい。地元をアピールする活動をしたい。
- ・地元の良さに気づく体験をしたい。地元の良さは安心感だと思った。他県との交流事業に参加したい。
- ・体験したことがあるかもしれないが、意識していない。地元の良さに気づいていないので、分からない。

(7)生徒は、友達の考え方から、新たに自分を振り返ることができましたか

自己評価 ★…19人, ☆…10人, △…3人

自由記述欄

- ・楽しみながら地域の良さと自分の考えを振り返ることができた。
- ・友人との考え方の違いに気づくことができ、改めて自分の考えの大切さを感じた。
- ・話し合い活動は、高校に入ってからあまりできなかったのが楽しかった。

【結果分析】

評価結果から読み取れる最も重要なことは、個々の生徒が自己評価によって読み物教材を深く分析できている点であろう。しかも7つの観点に立つことで、教材の多様な分析が可能となっていることが重要である。先に指摘したように、従来のワークシート方式では、授業を受けた生徒個人が最も印象に残った内容を自由に記述するケースが多い。もちろんそうした自由記述は大切であるし、それぞれの生徒にとって最も興味関心のある内容が何であるのかは明らかにされるだろう。ただ、そうであるが故に、教材解釈が一面的になってしまう傾向がある。しかも教材解釈理解に偏りが生ずると、個々の生徒が多様な側面から教材を理解する可能性を自ら狭めてしまうことにもなりかねない。7つの観点から自己評価する場合には、解釈理解のこのような傾向性を回避することができる。

また自由記述欄の文章から読み取れるのは、地元や故郷に対する自分自身への問いかけと、他の生徒たちとの対話の活性化である。それによって自己と他者との対話の深化が起こっている点に注意したい。グループによる話し合い活動は、これまでの高校道德の授業でもなされてきた。しかし7つの観点別の自己評価によって、生徒たちは話し合い活動の様々な側面をあらためて確認することができ、それによって自分自身との対話をさらに深めて行くことができているように思う。

さて、上記のような自己評価を生徒各自が行った後に、この種の評価方法に対するアンケート調査を実施した。その結果は以下の通りである。

自己評価に関するアンケート票

◎このような評価方法をどう思いますか。いかなる選択肢から一つ選んでください。

a 良い b だいたい良い c あまり良くない d 良くない

◎その理由を書いてください。

--

【調査結果】

<調査方法に対する印象>

「a 良い」・・・17人、「b だいたい良い」・・・18人、「c あまり良くない」・・・6人、「d 良くない」・・・0人、無回答1人

<自由記述の例>

○「良い」「だいたい良い」と回答した理由

- ・自分で自分を評価するのは自分を高めることにつながるからとてもいいことだと思う。でもお互いに評価するのもいろいろな意見を聞けるのでいいと思う。
- ・自分を見つめ返せるから良いと思います。★を書くのが苦手だから、ちょっと大変でした・・・。

- ・やりやすいです。
- ・普段考えていないことを視点を変えてみられるので、新しい発見や発想が生まれる。
- ・自分を評価することで反省することができて良いと思った。いろいろな考えがあつて勉強になる。
- ・道徳のような学習において、他人の評価をするのは難しいと思います。今回の授業でも、頭の中でイメージしているものがなかなか言葉にするのができなかったです。よって、こういう授業に関しては自己評価の方がよいと思います。
- ・自分の事を振り返れるから良いと思います。
- ・自分自身を反省できて良い。
- ・書きたいところを書き込めるからよい。自分のまとめができる。
- ・自分のことを客観的に見れると思う。
- ・普段あまりこういう方法でしないし、客観的に考えられるからいい。
- ・なんてすばらしいアンケートなんだ！！
- ・自分で自分を評価することはとても良いことだと思うから。
- ・自分で自己評価をすることで自分を見つめ直せるから良いと思う。また自分がしっかりと授業に参加できているかを反省できる点も良いところだと思います。
- ・他人と自分では評価が違うと思うし、自分を振り返れるからいいと思います。
- ・自分で自分の評価をするのはちょっと嫌だけど、みんなが分からない自分のがんばりを伝えられるので良い。
- ・自分自身を見つめ直すことはいいことだと思う。
- ・自分の活動を自分で評価するのは難しかったけど、自分の活動を自分で振り返ることができるから良いことだと思った。
- ・評価することでもう一度考え直せる。
- ・自分を理解するという意味でいいと思った。
- ・自分が授業にどう取り組めたのかを振り返ることができていいと思う。
- ・1～5までの評定がつくと、どうしても良い成績を取りたいという気持ち一心になつてしまい、道徳としての意味がなくなってしまうのでいいと思う。が、少し面倒でもある。
- ・自分で考え直せるので良いと思う。
- ・思ったままのことを書くことができるから。
- ・自分で自分のことをしっかり見つめられるからいいと思う。
- ・授業でやったことを振り返り、自分自身のことについて書けるから。

○「あまり良くない」と回答した理由

- ・自分で自分を振り返るのはいいが、人によって自己評価の厳しさが変わってしまうから。
- ・道徳的な考え方だつて社会的な考え方を反映しているのであつて、結局は他人の評価だと思う。自分で気づけることはごく一部であつて、自分の基準で自己評価してもほとんど意味がない。他人から指摘されてはじめて自分を本当に客観的に見ることができると思う。しかし、上で挙げたごく一部の可能性もあるので、一概に自己評価に意味がないともいえない。
- ・どうしても書けてしまう。しかも自分を評価するのは難しい。

- ・自分で自分を評価するのではなく、客観的に見て評価をするべきだと思います。
- ・確認してもそんなに意味がないと思う。
- ・自分に甘いから(甘い評価をしてしまう)。全部一番よくなっちゃう。

【結果分析】

「良い」「だいたい良い」に○をつけた生徒の主な回答は「自分自身を振り返ることができる」、「反省できる」、「見つめ直すことができる」というものが多かった。このような回答は、自己評価を行う最大のメリットであろう。従来のワークシート方式では、ここまで自己の考えを振り返ったり、見つめ直す生徒は少ないし、たとえそうしたとしても一面的である場合が多いであろう。

一方でこのような評価方式が、「あまり良くない」と判断している生徒たちの回答にも注意したい。彼らの判断理由の代表的なものは、「客観的に評価できない(個人によって差ができてしまう)」というものだった。そこには、自分に甘いという意見も含めて、自分の評価は人によって基準が違うから、評価の公正性が保証されるのか疑問であるとの判断があるようだ。道德授業に対するこのような自己評価の経験が少なく、自分で自分を評価することに慣れていないこともあるだろうが、彼らにはまだまだ自己評価への抵抗感があるようだ。

結語的考察 ー高校道德の評価の課題ー

およそどのような授業であれ、授業を行う以上、授業の前と後で、生徒に何らかの変化が見られなければならない。もちろんその変化は良い変化であり、教師が生徒に期待した変化であることが望ましいであろう。例えば、数学であれば、初めて知った公式を使って問題が解けるようになることは、授業を行った成果をして確認される。そして、その確認は客観的・合理的であり、公平性が担保されていなければならない。望ましい教育評価はそうした条件がそろっていないと見なければならないであろう。多くの教科教育の場合そのような条件を明確化することは比較的容易である。

道德の授業の場合、授業を通して道德的価値そのものの大切さや、そうした価値の自覚できる心情や判断力、さらには実践意欲や態度の変化に気づく必要がある。ところが、こうした諸々のことを、客観的に評価することは難しい。というのも道德の授業では、個々の生徒の内面性への働きかけが、客観的な基準として明確化することができないからだ。ここに教科教育とは違う意味で、道德教育を評価する困難性がある。そのため多くの道德の授業では、授業における個々の生徒の言動を観察し、授業後の提出された「ワークシート」(授業の振り返りシート)から探っていくことになるだろう。ただ、多くの学校においてはワークシートからの評価が形骸化しているといわれている。まず生徒自身が、授業の振り返りとしての自己評価ではなく、単なる自由感想になってしまっていること。さらに教師も、生徒の感想への単なる所見になっている場合が多い。

本論文では、そうした問題にアプローチするために、複数の「観点」という比較的客観的な指標を意識した上で「自己評価」させることの教育的可能性を模索した。先に分析したように生徒たちの「生徒自己評価表」から読み取れるのは、単なる自由感想ではない自己評価の意識が確認できる点である。彼らは教材資料を、多様な側面から考えていく探究心を深めている。特に個々の生徒が、自己の考えを見つめ直し、他者との対話の中で教材資料のテーマを論究する姿勢を持つようになっている点に注意したい。他方で

こうした自己評価は、教員にとっても多くのメリットがあるように思う。従来のワークシートからの評価では、自由記述欄を注意深く分析し、観点別の評価(例えば、「知識・理解」、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」等)を、教員が判断しなければならず、その作業は膨大なものになりがちであった。しかし、本論文で提示した自己評価方法では、そうした作業の問題だけではなく、教員の側からの判断だけでは見通せない評価ができるように思われる。

ただ、生徒たちの意見にもあったように自分で自分を評価することの公正性や客観性に関する問題は、自己評価を行う際の構造的な問題である。こうした点を解決させるためには、生徒の自己評価だけではなく、教員による評価を相互にリンクさせる工夫が必要となる。今後は、この相互評価システムの在り方を模索するために、理論的研究と実践的検証を積み上げていく必要があるだろう。今後の課題としたい。

注

- 1) 茨城県教育委員会『高等学校道徳教育指導資料―魅力ある「道徳」の実践を目指して―』(平成24年改訂版)，92―93頁。
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(平成21年)，351頁。
- 3) 同書，47頁及び49頁。
- 4) 同書，355頁。
- 5) 茨城県教育委員会『高校生の「道徳」 ともに歩む―今を，そして未来へ―』(平成23年一部改訂版)。
- 6) 茨城県教育委員会「茨城県立高等学校教育課程編成の手引」(平成22年)，31頁。
- 7) 茨城県教育委員会『高等学校道徳教育指導資料』(前掲1に同じ)，90頁。
- 8) 茨城県教育委員会『高校生の「道徳」 ともに歩む』(前掲5に同じ)，86―87頁。